

政策評価・事務事業評価シート

事業名称 おおたん教育支援隊事業

	H27年度予算額	(参考) H26年度決算額	(参考) H25年度決算額
事業費	90,922,000 円	102,267,428 円	98,045,569 円

事業評価チェック表

PLAN	・事業の概要 個別に支援が必要な児童生徒に対し、生活習慣や学習規律を身に付けさせ、学力を定着させるため、小中学校に人的配置を行う。 ・ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・放課後や長期休業中の学習指導を行い、児童生徒の基礎学力を定着させる。 ・授業中の学習支援を行い、児童生徒の学習規律及び基礎学力を身に付けさせる。 ・個別の学習指導を行い、相談室等に登校してくる児童生徒の学力を向上させる。 ・予算 26年度当初予算額 (102,302,000 円)					
	DO	・事業実績 前期49人配置(小学校28人 中学校18人 通信教室3人) 後期52人配置(小学校30人 中学校19人 通信教室3人) <ul style="list-style-type: none"> ①TTによる授業の中で、学習困難な児童生徒に個別支援を行う。(小学校26校 中学校15校) ②一斉授業についていくことのできない児童生徒を取り出して個別指導を行う。(小学校21校 中学校6校) ③不登校傾向の児童生徒を、相談室等の別室で指導を行う。(小学校8校 中学校13校) ④放課後に個別指導を行う。(小学校20校 中学校8校) ⑤昼休みや休み時間に個別指導を行う。(小学校15校 中学校8校) ⑥長期休業中に学習指導を行う。(小学校26校 中学校14校) 				
CHECK		評価項目	評価基準(概要欄の○)		評価点	評価コメント
	必要性 (市民ニーズ)	きわめて必要性が高い(20点)	○	20	社会環境が複雑に変化する中、生活面、学習面で、子どもたちへのきめ細やかな支援が必要である。また、親の経済格差が、子の学力格差に繋がらないようにすることや、現場の教員の負担軽減のためにも、必要性がきわめて高い。	
		必要性が高い(15点)				
		どちらかと言えば必要性がある(10点)				
		必要性が低い(5点)				
		必要性がない(0点)				
	公共性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない(20点)	○	20	義務教育課程で行っている補完的な事業であり、教育の格差を縮めるためにも、市がきめ細かい指導を行いながら、率先して事業を行う必要がある。	
		公共性が高い(15点)				
		どちらかと言えば市が実施(10点)				
		公共性が低い(5点)				
		公共性がない(0点)				
	費用対効果 (コストに見合った成果があるか)	きわめて効果的である(20点)	○	20	予算については、ほぼ人件費であり、学力テスト等の実績、保護者、学校現場からの声や、検証結果などから判断すると、きわめて効果的な事業を行っている。	
		効果的である(15点)				
		どちらかと言えば効果的(10点)				
		どちらかと言えば非効果的(5点)				
		非効果的である(0点)				
	優先性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	きわめて優先性が高い(20点)	○	20	支援隊は、学級に対する事業ではなく、個々の子どもに向けた事業であり、子どもたちの基礎的知識、技能の習得時期においては、個々の子どもたちに合わせた対応ができるため、きわめて優先性が高い事業である。	
		優先性が高い(15点)				
		どちらかと言えば優先性がある(10点)				
		優先性が低い(5点)				
優先性がない(0点)						
成果 (目標の達成状況)	きわめて成果があがっている(20点)	○	15	本当の成果はというのは、5年、10年のスパンをみないと、見えてこないと思われるが、検証結果や、現場の声を見る限りにおいては、成果があがっている。		
	成果があがっている(15点)					
	どちらかと言えばあがっている(10点)					
	どちらかと言えばあがっていない(5点)					
	成果はあがっていない(0点)					
ACTION	総合評価基準		計	95/100	課題	
	評価	5 きわめて良好である	80点以上	○	5	指導に長けた人材の確保、任用した教員の資質向上が必要不可欠である。また、支援が必要な子どもたちの保護者との意見交換などの環境づくりを行い、子どもたちのため、さらなる支援の充実が必要。
		4 適正である	60~79点			
		3 おおむね適正である	40~59点			
		2 問題がある	20~39点			
		1 不適正である	19点以下			

決算事業評価結果表

評価	今後の方向性基準評価(概要欄の○)		評価	決定理由
	5 「拡充する」			
	4 「現状のまま継続する」	○		
	3 「改善・効率化し継続する」			
	2 「見直しのうえ縮小する」			
1 「不適正である」				

事業名称	議会評価		特定理由(今後の事業展開)
	総合評価	今後の方向性	
おおたん教育支援隊事業	5	4	子どもたちのための素晴らしい事業であり、今後も充実した事業を続けていきたいが、支援隊を必要としている子どもが多い学校には、複数の人員配置ができるよう、予算を含め、特段の配慮をお願いしたい。 また、より一層の事業の充実のため、地域の方の協力を得ながら、指導に長けた人材を採用し、きめ細やかな指導を行っていただきたい。 さらに、生活困窮者の子どもが教育の格差を受けないように、福祉部門とも協力しながら、支援隊の活用を検討していただきたい。